

# 中間報告書

令和3年9月30日現在

- 1 事業名 にいみ木にかかわりビトプロジェクト2021
- 2 実施期間 令和3年4月19日～令和4年3月22日
- 3 事業内容

## ① 事業の目的・概要

子どもから高齢者までの各世代が「木育」活動を通じて、木の持つ魅力を体感し、身近な生活の中に「おかやまの木」を取り入れていこうという意識へと繋げていきたい。新見産材を使った「木のおもちゃ」のワークショップや「木の素材」を活かしたものづくりワークショップを展開していくことで、新見発の「新見の木育」が備中圏域、県内、全国へと普及することを目指していく。

## ② 事業の流れ・進捗状況等

### <実施したこと>

#### 1 木育の普及・啓発

##### (1) 「第4回森のゆうえんち in にいみ」の開催に向けた取り組み

令和2年度に実現しなかった、大学生の企画運営による「第4回森のゆうえんち in にいみ」に向けた実行委員会を開催した。11月7日（日）実施に向け、コロナ禍を想定した開催内容の検討や行政との連携を図りながら、準備に努めている。

幼・小・中・高・大学を通した「生涯木育」推進での地域活性化に繋げたい。

6 / 10 第1回実行委員会 立ち上げ式、参加者9名 新見公立大学

6 / 14 第2回実行委員会 コンセプトの決定 参加者12名 新見公立大学

6 / 15 第3回実行委員会 内容協議 参加者12名 新見公立大学

8 / 12 第4回実行委員会 内容協議 参加者14名 新見公立大学

9 / 9 第5回実行委員会 内容協議 参加者14名 新見公立大学

9 / 27 第6回実行委員会 内容最終検討会 参加者10名 新見公立大学

##### (2) 「木のおもちゃ」を使ったワークショップや「移動おもちゃ広場」の企画・運営

令和2年度事業に引き続き、各年代に合わせた「木育プログラム」の実践事業を新見市や備中県民局管内で展開している。「木のおもちゃ」の特性や発達段階ごとの効果や遊び方のレクチャーをはじめ、直接「触れる・遊ぶ」といった体験活動により、参加者が「おかやまの木」の良さに気づき、生活の中で「木製品」を使おうとする意識へと繋げていく。

令和2年度事業で認定子ども園に設置した新見産ひのきの積み木を、社会福祉協議会と連携して夏のボランティア研修会で中、高校生が磨き直して、認定子ども園に再設置した。

また、新見高校が取り組む、高校生発！「木のぬくもり実感」事業（おかやま森づくり県民税を活用した事業）に協力して、県産材を用いた制作活動を支援した。

なお、コロナ禍により、8、9月は実施を見合わせた行事も多数あった。

- 7 / 2 (金) 新見市立草間台保育所親子参観日
- 7 / 9 (金) 新見高校での新見産材を用いた制作活動
- 7 / 10 (土) 社会福祉協議会の夏ボラ研修会 (新見産ひのきの積み木磨き)
- 7 / 20 (火) 夏ボラ研修会での積み木を南認定子ども園に届ける
- 7 / 24 (土) 新見市刑部小学校3年生学年支会活動
- 7 / 29 (水) 高梁市落合学童保育
- 8 / 2 (月) 高梁市高梁学童保育

(3) 新見産材等を活用した木製品の企画や普及啓発

○地元の教育機関への「ヒノキ」材を活用した「ヒノキの積み木」を制作中。令和2年度に設置できなかった認定こども園や子育て施設5箇所を予定している。  
○木のジャングルジム「くむんだー」の製作と修繕に取り組んでいる。「第4回森のゆうえんちinにいみ」での使用を目指している。

(4) 木育を展開するための人材育成

○「木育プログラム」構築に向けて、官公庁や「木に関わる人達」とのネットワークを有効に活用しながら調査、研修を進めていく。

- 7 / 1 新見市ウッドスタート事業円卓会議に出席

**<今後、実施すること>**

- ㊦ 「第4回森のゆうえんちinにいみ」の実施 11 / 7 予定
- ㊧ 「木のおもちゃ」を使ったワークショップの実施
- ㊨ 新見産材を使った「ヒノキの積み木」の未設置園への設置
- ㊩ 「クミノ」や「木のおもちゃ」のインストラクター研修会の開催  
岡山県の主催する植樹祭イベントに参加 10 / 2 予定  
倉敷都市緑化フェスティバルへ出展 10 / 24 予定

**③ これまでの成果・効果、今年度事業終了後の成果・効果の見込み**

コロナ禍のため、ワークショップ等への影響は出てはいるが、ほぼ順調に事業実施ができています。大学生を中心とした「第4回森のゆうえんちinにいみ」は、SDGsの観点を取り入れ、従来型の「木育イベント」にはない発想が取り込んでいる。

「くむんだー」や「クミノ」のワークショップについて、備中県民局外や京都、大阪からも依頼がくるようになった。保育所等への活動支援を視野に入れて活動を展開していきたい。

**④ 課題等**

人が集まることを前提にしているため、三密回避についての様々な方策について協議している。「第4回森のゆうえんちinにいみ」の実施に関して、大学との連携を図り、地域子ども達と大人にとって安全に楽しめる会にしていきたい。

事業計画書

① 団体名	一般社団法人にいみ木のおもちゃの会
② テーマ区分	指定テーマ( 10 ) ・ 自由テーマ *該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。
③ 事業名	にいみ木にかかわりビトプロジェクト
④ 採択回数等	2 回目 *令和2年度に採択され、継続する事業については、いずれかを○で囲んでください。 新制度の適用 ・ 経過措置規定の適用 (補助率4/5以内、上限160万円) (補助率1/2以内、上限100万)
⑤ 事業目的	再生産可能な資源である木材の利活用を促進し、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の持続的な循環を進めることで、森林の多面的機能の発揮、循環型社会の形成や地域経済の活性化に資する。 子どもから高齢者までの多世代の多種多様な方が「木育」活動（木材利用に関する教育活動）を通じて、木の持つ魅力を体感し、身近な生活の中に「木」を取り入れていこうという意識へ繋げ、木材利用への消費者理解を醸成する。 また、「木育」活動を通じて地域の連携を深め、地域活性化を図る。
⑥ 現状及び課題	当会の考える「木育プログラム」の展開に基づき、各年代層に合わせた「木育体験」の実施や世代間交流を図ってきた。 令和2年度は教育、福祉、子育て支援の場で「木育」を展開し、県産材の利用普及についての県民の意識を知るためアンケートを行ったところ、木育活動を実施してきた新見地域では「木育」への認知度が高くなっており、少しずつではあるが「木の良さ」に着目する方が増えてきていることが伺われた。 実際に「おかやまの木」を身近な生活に取り入れる行動、県産材の利活用促進につなげるためには、継続的な取組が必要である。
⑦ 事業内容	1 木育の普及・啓発  (1)「第4回森のゆうえんち in にいみ」の開催 年1回 令和2年度にコロナ渦を考慮して取り止めた「第4回森のゆうえんち in にいみ」を新見公立大学と連携して学生の企画運営により開催する。幼・小・中・高・大学を通した「生涯木育」を推進し地域活性化に繋げるとともに、事業推進過程の中で、備中地域内の木育団体との連携や子育て支援、福祉、医療分野との連携ネットワーク化を図る。 ・木に関わる各種ブースの設営、アクティビティを通しての交流  (2)「木のおもちゃ」を使ったワークショップや「移動おもちゃ広場」の企画・運営 令和2年度に引き続き、各年代に合わせた「木育プログラム」の実践事業を新見市のみならず、備中県民局管内で展開する。「木のおもちゃ」の特性や発達段階ごとの効果や遊び方のレクチャーをはじめ、直接「触れる・遊ぶ」といった体験活動により、参加者が「おかやまの木」の良さに気づき、生活の中で「木製品」を使おうとする意識へと繋げていく。

	<p><b>2 新見産材等を活用した木製品の企画や普及啓発</b>  令和2年度に引き続き、新見市内の保育、教育機関等に新見産ヒノキ材を活用した木製品を地元木材関係事業者と連携して提供する。新見地域産のヒノキやスギでの「木のおもちゃ」や製品の創作、販売を通して、地域のサプライチェーンの確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「木のジャングルジムくむんだー」、「ヒノキの積み木」の製作</li> <li>・保育所等への木のおもちゃの貸出・設置、普及活動</li> </ul> <p><b>3 木育を展開するための人材育成</b>  「木育プログラム」構築に向けて、官公庁や「木に関わる人達」とのネットワークを有効に活用しながら調査、研修を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の実施 5回  木育先進地(岐阜県)から講師を招いての研修会  県内の「木育」関係者を対象とした指導者研修会  当会会員の「木育プログラム」研修</li> </ul>																				
<p>⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応</p>	<p><b>*代替案の検討、事業縮小、事業中止など</b>  令和2年度はコロナ禍を考慮して集客イベントの取り止めなどを行った。県のガイドラインに従った適切な対応をとることになる。安全をまず第一に考えた対応としたい。そのうえで可能であれば代替え案の中で規模を縮小して実施していきたい。</p>																				
<p>⑨今年度の成果目標と指標</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果目標</th> <th>指標</th> <th>現状(数値)</th> <th>目標(数値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>木育の普及・啓発</b> 「木育」という取組への認知の向上</td> <td>「木育」認知度</td> <td>新見市 65% 倉敷市 43%</td> <td>新見市 80% 倉敷市 45%</td> </tr> <tr> <td>参加者が木材を使う、森林整備に関わる行動を取り始める</td> <td>アンケート等により、実際に木製品を生活に取り入れた等の回答が得られる</td> <td>数値目標なし</td> <td>数値目標なし</td> </tr> <tr> <td><b>新見産材等を活用した木製品の企画や普及啓発</b></td> <td>木と触れあう空間づくりの箇所数</td> <td>昨年度 6箇所</td> <td>10箇所</td> </tr> <tr> <td><b>木育を展開するための人材育成</b></td> <td>参加団体数、人数</td> <td>昨年度 6団体、32人</td> <td>15団体、60人</td> </tr> </tbody> </table>	成果目標	指標	現状(数値)	目標(数値)	<b>木育の普及・啓発</b> 「木育」という取組への認知の向上	「木育」認知度	新見市 65% 倉敷市 43%	新見市 80% 倉敷市 45%	参加者が木材を使う、森林整備に関わる行動を取り始める	アンケート等により、実際に木製品を生活に取り入れた等の回答が得られる	数値目標なし	数値目標なし	<b>新見産材等を活用した木製品の企画や普及啓発</b>	木と触れあう空間づくりの箇所数	昨年度 6箇所	10箇所	<b>木育を展開するための人材育成</b>	参加団体数、人数	昨年度 6団体、32人	15団体、60人
成果目標	指標	現状(数値)	目標(数値)																		
<b>木育の普及・啓発</b> 「木育」という取組への認知の向上	「木育」認知度	新見市 65% 倉敷市 43%	新見市 80% 倉敷市 45%																		
参加者が木材を使う、森林整備に関わる行動を取り始める	アンケート等により、実際に木製品を生活に取り入れた等の回答が得られる	数値目標なし	数値目標なし																		
<b>新見産材等を活用した木製品の企画や普及啓発</b>	木と触れあう空間づくりの箇所数	昨年度 6箇所	10箇所																		
<b>木育を展開するための人材育成</b>	参加団体数、人数	昨年度 6団体、32人	15団体、60人																		
<p>⑩中期(数年)的な目標</p>	<p>保育、教育等子育て支援の場、障害者支援、高齢者福祉等福祉の場、地域住民の交流の場など、様々な場面で事業を継続していくことにより、地域の中に「木育」に対する意識が深まり、各人が生活の中に「木」を取り入れる具体的な取組が広まり、県産材の利活用が促進されることを目指す。</p>																				
<p>⑪長期的な目標</p>	<p>「木育プログラム」の展開により、木材の利用や森林資源の保全への理解が深まり、木材利用、森林整備に対して主体的な姿勢を持って行動する市民が育ち、林業人口の増加と共に地域の活性化へと繋がる。  中山間地域にとどまらず、「木育」を子育て支援や教育活動の一環として取り組む市町村も増えてくる。  新見産材を使った「木のおもちゃ」「木の素材」を活かしたワークショップを継続的に展開し、新見発の「新見の木育」が、備中圏域、県内、全国へと普及することを目標とする。</p>																				

⑫ 翌年度以降の事業展開の予定	<p>一般社団法人化により、新見市外、県外からの「木育」活動のコーディネートへの依頼も増えてきた。木のおもちゃの貸出やワークショップの指導料を財源として事業展開できるようにしたい。</p> <p>森林環境譲与税の効果的な利用についてのプランニングも事業展開の一つとして考えている。</p>
⑬ 事業実施に関連する活動実績・アピールポイント	<p>一般社団法人化後、林業振興と地域活性化という視点と方法論をより具体化し、事業展開してきた。備中県民局提案型協働事業の採択を受けることにより、新見市の枠を越えた事業内容も増え、他市町村からの「木育」「施設の木質化」「自然遊び」の企画、支援依頼が目に見えて増えてきている。</p> <p>これからも新見市に軸足を置きながら「木育」の全国発信を続けていきたい。地道な活動が「おかやまの木」の普及に繋がるものと考えている。</p>
⑭ 想定される役割分担	<p><b>【団体】</b> 各事業の企画、調整、運営、広報。</p> <p><b>【県民局】</b> 各事業を実施するための他の行政機関との連絡調整や木育推進のための資料および情報提供。</p> <p><b>【その他】</b> 木育先進地の木育ネットワークの効果的活用。</p> <p><b>【理由・期待できる相乗効果】</b> 県民局と協働することで、新見市内に留まらず広く当会の木育事業を展開することができると思う。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑤事業目的」欄は、事業を通じて目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境など）、解決したい地域課題や受益者等を踏まえて記入してください。
- 3 「⑥現状と課題」欄は、理想と現実とのギャップ（問題）、事業実施の要因となる地域課題等について記入してください。根拠となる統計データや当事者ニーズ等があれば、それも示してください。
- 4 「⑦事業内容」欄は、課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに分かりやすく記入してください。
- 5 「⑧天災地変、感染症等で⑦の事業が実施できない場合の対応」欄は、代替案の検討、事業縮小、事業中止などの考えを記入してください。
- 6 「⑨今年度の成果目標と指標」欄は、⑤の目的を果たすために今年度事業で目指すところ（短期の成果目標）を具体的に記入し、事業を評価するための指標と、実施前（現状）と実施後（目標）の数値について記入してください。具体的な数値が得られない場合は、目標と指標のみを記入してください。
- 7 「⑩中期(数年)的な目標」欄及び「⑪長期的な目標」欄は、⑤の目的を果たすため、中長期的に目指すところ（中長期の成果目標）について、具体的に記入してください。
- 8 「⑫翌年度以降の事業展開の予定」欄は、「⑩中期(数年)的な目標」及び「⑪長期的な目標」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源等について記入してください。
- 9 「⑬事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄には、備中地域への波及効果、事業の先進性、先駆性及び独自性に関する事、継続事業における活動実績や成果等について記入してください。
- 10 「⑭想定される役割分担」欄は、協働協定書に基づく提案団体及び備中県民局の役割を記入するとともに、その他関連団体や機関の想定される役割等を記入してください。

## 日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
3 年 11 月	1 木育の普及・啓発 (1)「第 4 回森のゆうえんち in にいみ」の開催 (11 月予定) 11 月 7 日 (日) ・ 0 歳児から高齢者までが、木に関わる各種ブ ース、アクティビティを通しての交流 ・ 新見公立大学や各種団体との連携	新見公立大 学体育館	800 名 400 ~ 500 名
3 年 5 月 ~ 4 年 3 月	(2)「木のおもちゃ」を使ったワークショップや 「移動おもちゃ広場」の企画・運営 ・ 子育て支援 ・ 学校教育との連携(総合学習、生活科) ・ 地域活性化 ・ 大学教育との連携 ・ 自然体験活動の推進 ・ 保育所、幼稚園支援	幼稚園、保育 所、学童保育 小中学校、高 校、大学、特 別支援学校、 高齢者福祉施 設、子育て支 援センター等	50 回 9,000 人 (50 人 × 20 回① 100 人 × 30 回① 500 人 × 10 回②)
3 年 5 月 ~ 4 年 3 月	2 新見産木材等を活用した木製品の企画や普及啓 発 ・ 「木のジャングルジムくむんだー」の製作と普及 ・ 地元産の「ヒノキの積み木」の製作と普及 ・ 保育所、子育て支援施設への「木のおもち ゃ」の貸出、設置	地元木工所 建具屋、木 工職人	10 回 5,000 人
3 年 5 月 ~ 4 年 3 月	3 木育を展開するための人材育成 ・ 「木育プログラム」の開発と実践 あらゆる年代における「木のおもちゃ」をツ ールとした「木育マニュアル」やプログラム開発 ・ 「木育」先進地との情報交換と情報の共有 ・ 「木育」に係る研修会の実施 先進地岐阜県の講師を招いての研修会 1 回 県内「木育」関係者を対象とした指導者研修会 1 回 当会会員の「木育プログラム」研修 3 回	幼稚園、保 育所、学童 保育小中学 校、高校、 大学、特別 支援学校、 高齢者福祉 施設、子育 て支援セン ター等	5 回 60 人

## ＜記入上の注意事項＞

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください(例：〇〇市文化センター、△△市内)。  
不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場  
合は未記入で構いません。